

# しがしクからの おたより



Smile  
for all

令和6年度 第2号 2024年9月  
滋賀県レクリエーション協会 事務局 発行  
送信・返信先 〒525-0052 滋賀県草津市西矢倉 3-17-13 黒川かず江方

## ひこねスーパーカロムの普及と大会

ひこねスーパーカロムは、ニュースポーツを彦根から何かしら独自のものを作り発信しよう、と当時の体育指導委員協議会から出てきたものでした。それが22年前となります。

彦根市では20年前よりスーパーカロム大会を毎年開催してもらっていて、今年も9月に実施されます。最初は市内の17チームから始まって、コロナ前の参加チームは当初の倍になっていました。それと、他府県からの愛好者チームも参加されるようになり、遠くは福島県、近くでは兵庫県と全てが上げられないくらい参加して頂いていました。

スーパーカロムはその名の通り彦根市内で盛んなボードゲーム、カロムの大きい版です。1チーム4名で子どもからお年寄りまで誰でも出来る軽スポーツです。しかし最近ではプレイヤーの技術が向上してきて、上級者が徐々に増え、凄く先を読んだり、ルールのスキを逆手に取ったりして勝つことを優先しているチームも出てきました。愛好者だけで楽しく和気あいあいとされている多くの所は面白くないと苦情が入るようになってくる始末です。しかし、本来のスーパーカロム立案、制作時は楽しく出来るものとして完成させたのですが、やはり二昔経つと変わるのですね。一度やってハマれば癖になる方が多いです。外国人の方もよく参加いただいています。それ以外に市内17学区においては年1回大会を催す所も増えてきており、北日本の東北地域では積雪がある時のレクリエーションに使われてたりと様々です。

来年は、国スポ、障スポの開催があります。スーパーカロムもスポーツ推進委員と担当事務局でデモンストレーションを行う動きで進んできています。今以上に沢山の方に知っていただけるように彦根市全体で取り組んで貰っています。今後は障害者でもプレー出来る工夫をしていかねばならないと、日々考えつつ普及促進しております。(田附隆司)



# 令和6年度フォローアップセミナー

6月2日 場所；長浜伊香ツインアリーナ

午前中は講師に前山直氏を迎え、まずは参加者の自己紹介の後「レクリエーションの目的」について質問されました。それは『心の元気づくり』であり、周りの方々との交流をはかり、また深めることによりレクリエーションの輪を広げることだと再確認しました。

またニュースポーツは、色がきれいでよい音が出る用具を使って、みんなが楽しむことを一番に考えて、対象者に合わせてルールを変えていくことも大事であり「ニュースポーツコンセプト」とは新しい概念で、競争ではなく楽しむためのルールで行うというお話をされた後、円陣で一人ずつカウントしながら準備運動やストレッチをしました。

まず最初の実技は『皿回し』です。久しぶりに手にする方々も多く、初めはみんな皿を拾ってばかりでしたが、回すコツを教えてもらってからはすぐに上手に回すことができるようになる方もいて「逆上がりができた時の感動に似ている！」とおっしゃっていました。

次は『トリコロールキューブ』で、2個でのお手玉練習までは皆さん笑顔でしたが、3個となると悪戦苦闘でした。

『ブーメラン』も1回だけ投げてキャッチできた方は一人だけで「今日は拾ってばかりやなあ〜」という声があちこちで聞こえました。

午前中最後は『フライングディスク』で、2人組で何回ラリーできるか2チームで勝負しました。昼食休憩をはさんで午後からは二宮保氏の指導のもと『ユニカール』をしました。投球練習の後、ルール説明を受け、さっそく練習ゲームです。得点の数え方や細かいルールを教えてらいながら、いざ本番。男子チーム、女子チームともゆずらず、6回を終了して同点だったのでターゲットユニカ方式で男子チームの勝利となりました。

次は『マインディスティックカーリング』で、マット（345cm×81cm）の上でシート（75cm×48cm／4枚）を敷き、ストーンは直径3.8cmと小さいのですが、スティックを使って滑走させます。ルールはカーリングの公式に準じたものです。スティックでストーンをコントロールするのがなかなか難しかったので、対象が小学生や高齢者の場合は、スティックを使わず、手で滑走させた方が良いとのアドバイスがありました。

最後は今人気のフィンランド発祥の『モルック』とスウェーデン発祥の『クップ』といった丸棒で切り株に見立てた角材を倒すゲームで、木の温かみを感じながらできるスポーツを楽しんで終わりました。

朝は雨模様でしたが、帰る時には青空が広がり、疲労感も薄れ、すがすがしい気分の家路につきました。





# 学校レク出前講座

レクリエーションは心を元気にする活動。そんなレクリエーション活動を学級経営に活かし、コミュニケーションを深めて信頼関係を築いていく。そのためのレクリエーション支援の方法を身につけることを目的に、学校レク出前講座を開催しました。

① レクリエーション指導者資格を持つ公認指導者を学校に派遣し、先生方にレクリエーション支援の方法について学んでいただきます。研修内容「レクリエーション支援による人間関係づくり」「自主的、主体的な姿勢を育むレクリエーション支援」「コミュニケーション能力を高めるレクリエーション支援」「遊びが運動になるレクリエーション活動の展開方法」など

## 参加者の感想

レクリエーションの目的「心を元気にする」こと。その言葉どおり、活動中から夢中になり、活動終了後には、笑顔いっぱい元気になりました。レク活動後、「ホスピタリティとアイスブレイキング」のお話を聞かせてもらうことで、立ち位置や距離感のこと、一指示一動作など、納得できました。私たち事務職員が職場でレク活動の指導者になる機会は少ないですが、良好なコミュニケーションをとるための「配慮」や「技術」は、とても参考になりました。

幼稚園・保育園や高齢者サロンでもレクリエーション支援が必要とされています。次年度も開催予定ですので、出前講座をご希望される方は、県レク事務局までご連絡ください。



志賀コミュニティセンター



東近江市立御園小学校



湖東コミュニティセンター



東近江市立山上小学校